

# 私立大学研究ブランディング事業

## 平成29年度の進捗状況

学校法人番号	131063	学校法人名	東京電機大学		
大学名	東京電機大学				
事業名	グローバルIoT時代におけるセキュアかつ高度な生体医工学拠点の形成				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	7830人
参画組織	医療・福祉機器開発・普及支援センター、サイバー・セキュリティ研究所、工学研究科、理工学研究科、未来科学研究科、情報環境学研究科、先端科学技術研究科				
事業概要	<p>本学の長年にわたる医用工学研究とサイバーセキュリティ研究の実績を融合し、セキュアなIoT医療機器システムの開発を行う生体医工学拠点を形成する。アジアからの留学生も含めた人材育成を行い、十分に整備されていない環境でも使用可能で、メンテナンス性の高い医療機器システムの開発を産官学が連携して実践する。「セキュアIoT生体医工学」＝「東京電機大学」を目指し、安全・安心・快適な社会の未来創造に貢献する。</p>				
①事業目的	<p>本事業では、IoTを活用して、セキュアなリモートメンテナンス機能を有する医療機器システムの研究開発を核として、拠点形成を行う。国内のみならず、国際的に異なる環境下においても使用可能で、メンテナンス性の高いセキュアな医療機器システムの開発を産官学連携により推進し、安全・安心・快適な社会の未来に貢献することが目的である。事業の中では、新たに公開講座「医療機器国際展開技術者育成講座」を開催し、アジアの留学生の受け入れと人材育成を行い、事業の実現を目指す。さらに、ステークホルダーに積極的に情報発信を行い、大学の価値向上を目指す。</p>				
②平成30年度の実施目標及び実施計画	<p>(実施目標)①生体医工学グループとセキュリティグループの統合研究を開始する。②主要な医療機器関連機関とネットワーク構築について情報を入手する。③留学生の参加を強化すると共に、公開講座の内容をさらに充実させる。④成果報告会を実施する。 (実施計画)①生体医工学グループ、セキュリティグループでの個別研究と並行して、具体的に高度セキュアIoT医療機器システムの研究開発を開始する。②参加企業の検討、調整を進める。③留学生による教科書翻訳作業を開始する。④公開で成果報告会を実施する。</p>				
③平成29年度の事業成果	<p>①事業実施体制では、学長のリーダーシップのもとに、研究ブランディング事業推進委員会及び幹事会、統合研究分科会(MSS/Maintainability for Safety and Security)、外部評価委員会を整備した。②研究環境では、参画研究者の確定、研究室の確保、装置・備品の購入を行った。③情報発信では、ホームページの作成公開、パンフレットの作成、キックオフシンポジウムの開催、展示会を実施した。④外部評価委員候補者に、事業内容を説明した。⑤人材育成として、次年度公開講座のプログラムを作成した。</p>				
④平成29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果	<p>(自己点検・評価) ①申請した事業計画書に沿って、研究ブランディング推進委員会等を設け、事業実施体制の整備を行った(会議15回開催)。②研究者、研究室、予算を確定し、個々の研究及び統合研究について、計画を共有化し、研究環境を整備した。③PDCAの管理項目を具体化した。④ホームページの作成、公開シンポジウム、パンフレットの作成配布を行い、情報発信を実施した。全体として、計画は達成したものと自己評価する。</p> <p>(外部評価) ①事業計画申請時に依頼した外部評価委員に加えて、本事業分野の専門家に外部評価委員として参画していただくこととした。②候補者を含めた外部専門委員の方々には、3月12日のキックオフシンポジウムに参加していただき、事業内容の説明を行い、事業実施中の外部評価を依頼した。③外部評価委員からは、市場を考慮すると、極めて重要な事業であり、積極的に進めてほしいとのご意見をいただいた。④シンポジウムではアンケートを実施し、回答の多くは、「成果に期待する」という内容であった。</p>				
⑤平成29年度の補助金の使用状況	<p>①研究設備:申請した超音波診断装置を導入した。 ②研究費(機械装置):計測機器、ワークステーション、モニター等に使用した。 ③研究費(消耗品):センサー、データロガー、実験器具、実験材料等に使用した。 ④広報普及費:Web関係、パンフレット作成、展示会、シンポジウムで計画通り使用した。 ⑤その他費用:外部評価委員の謝金として使用した。 平成29年度の補助金使用状況は、申請した計画通りに推移した。</p>				